

最近のサイバー攻撃に対する企業の自己防衛策

2012年1月

サイバーディフェンス研究所
名和 利男

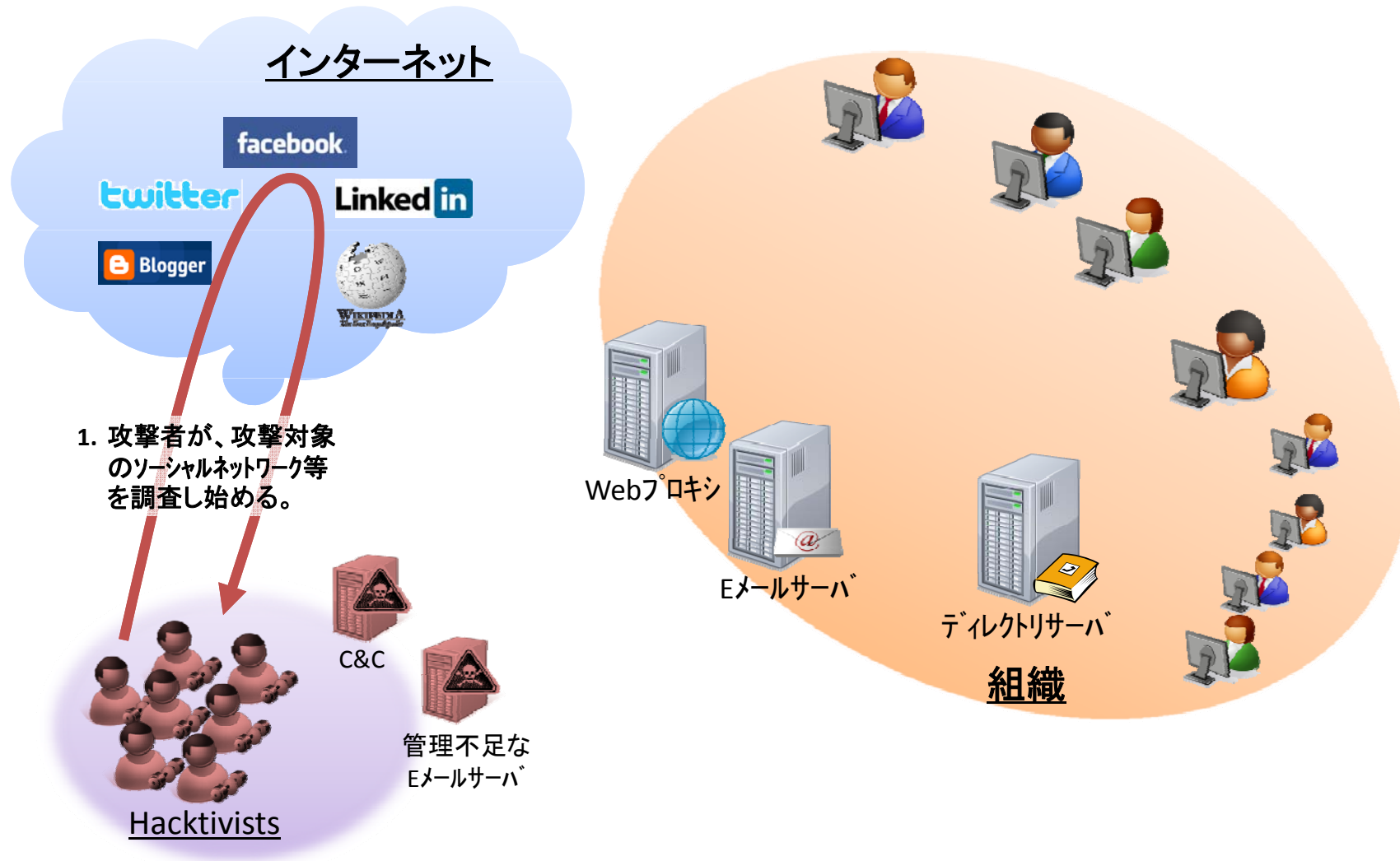
アジェンダ

1. 最近のサイバー攻撃のプロセス
2. 注目すべき事例
3. 求められる防衛策のポイント

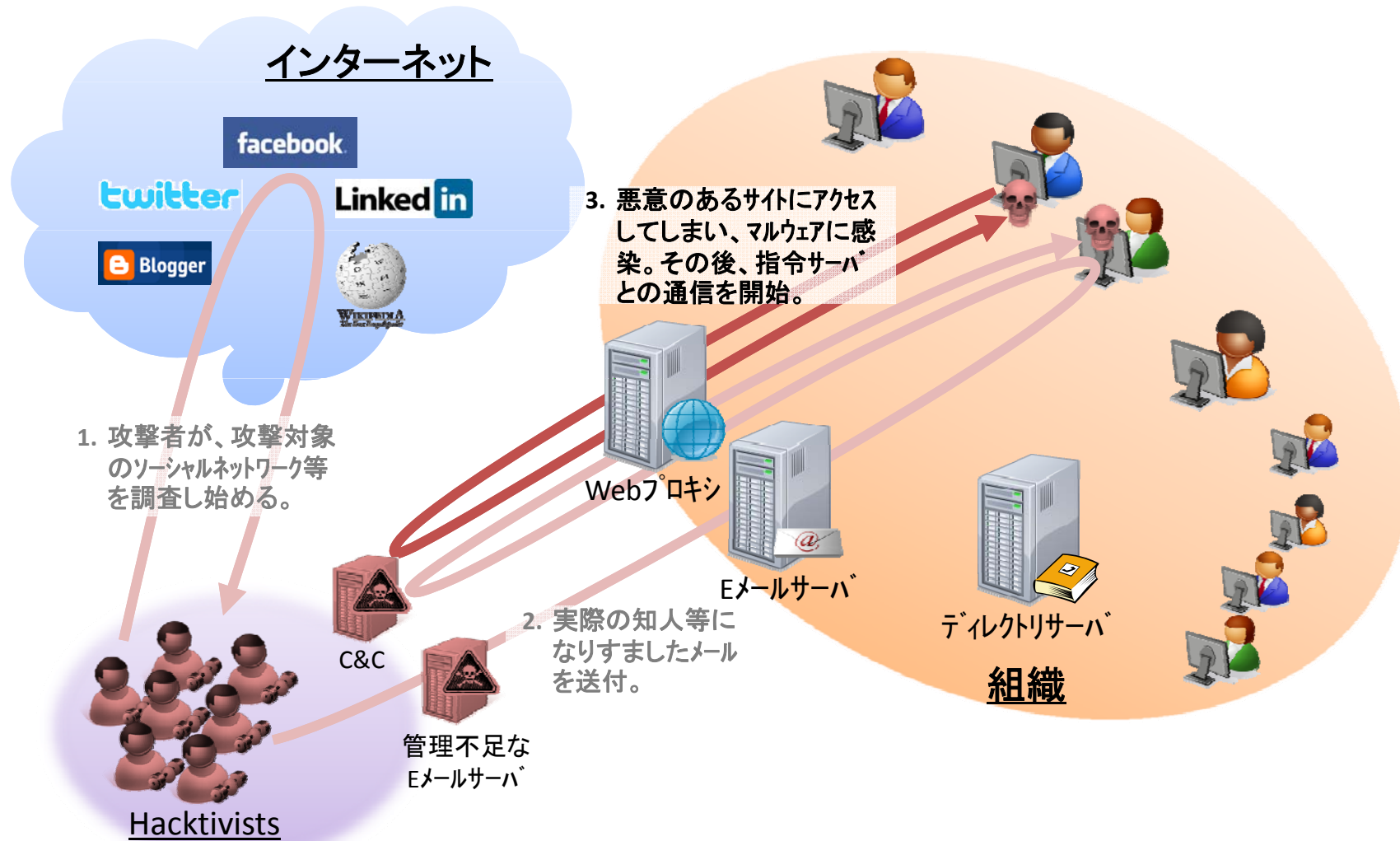
トピック 1

最近のサイバー攻撃のプロセス

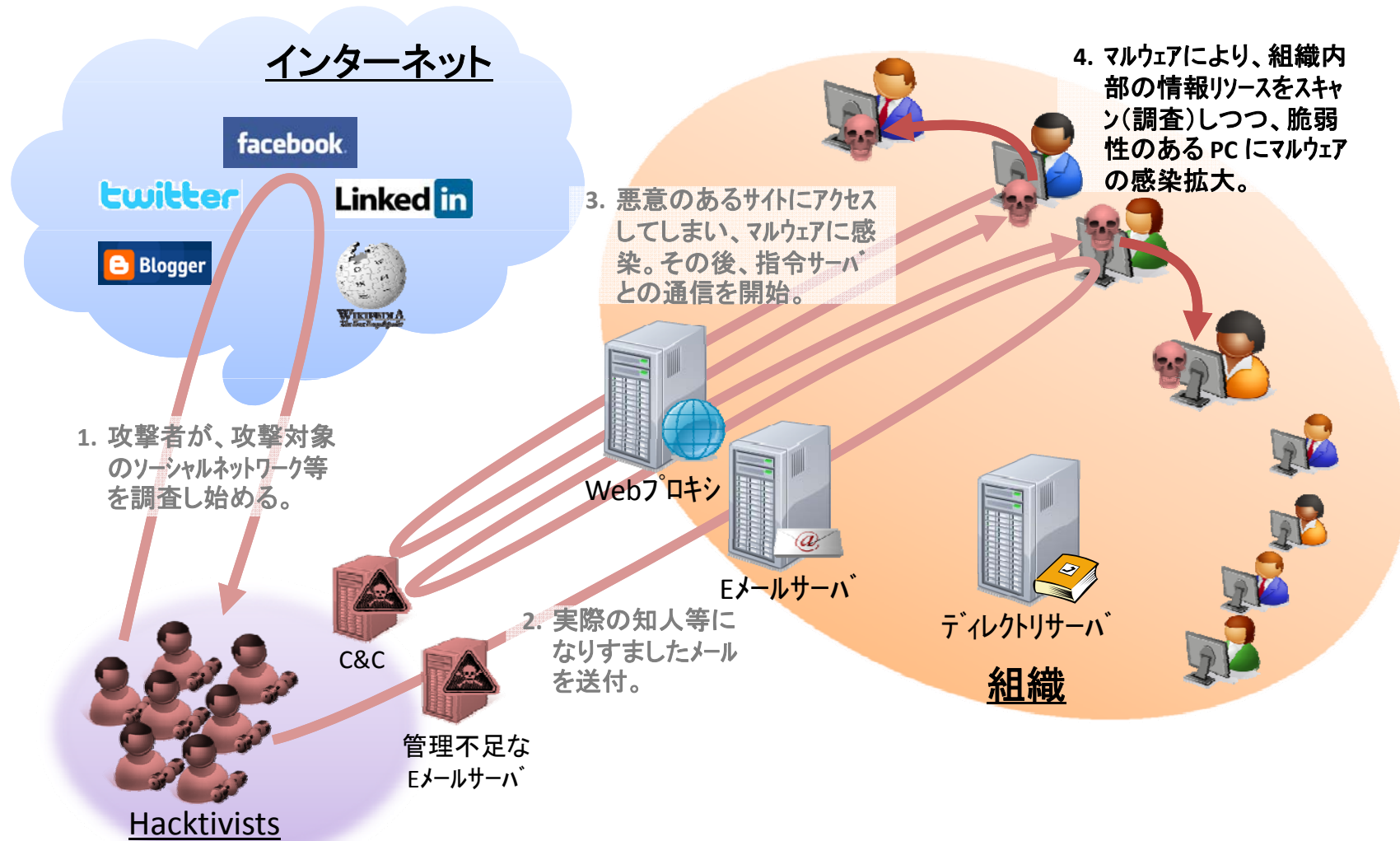
最近のサイバー攻撃のプロセス(1)



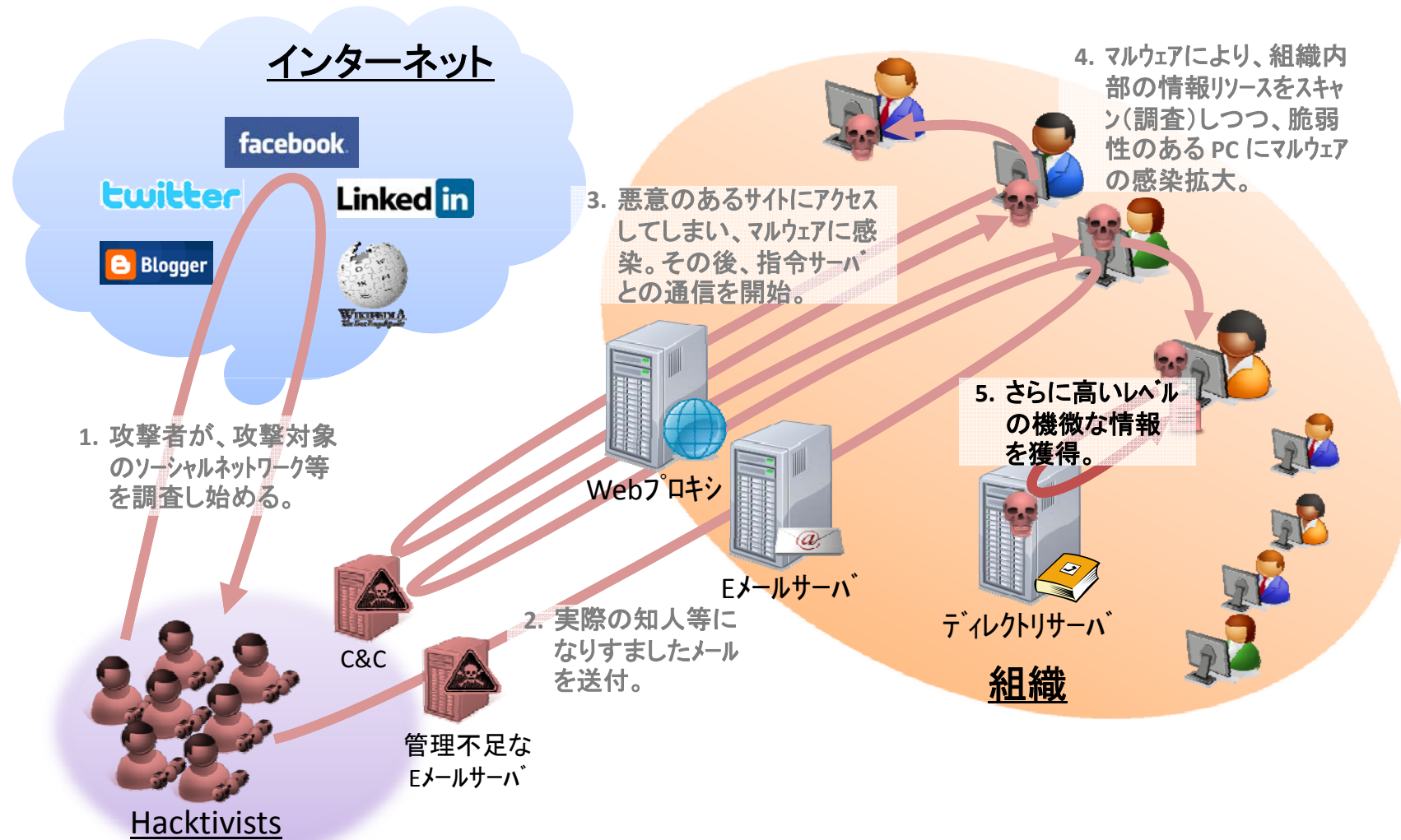
最近のサイバー攻撃のプロセス(3)



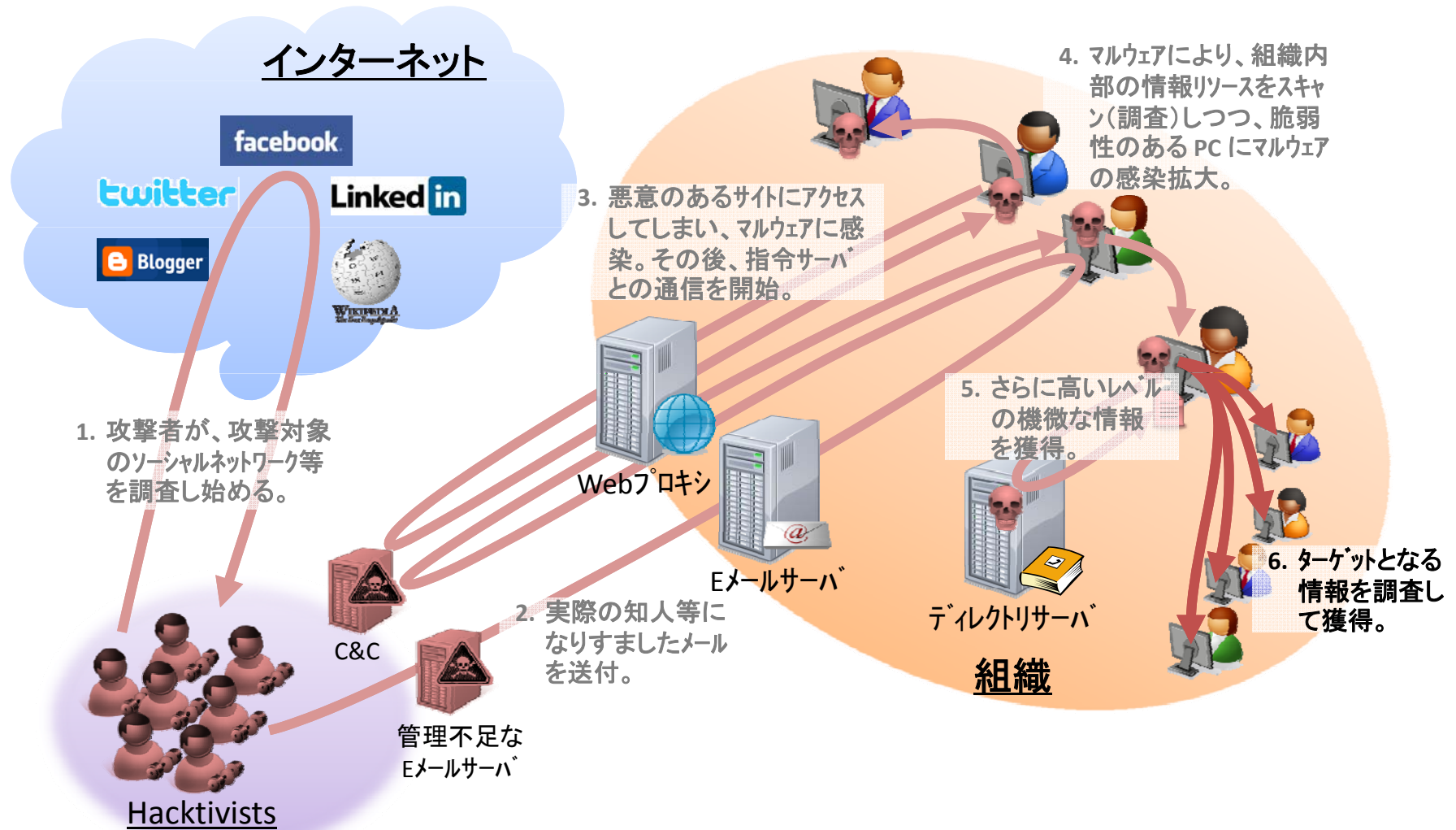
最近のサイバー攻撃のプロセス(4)



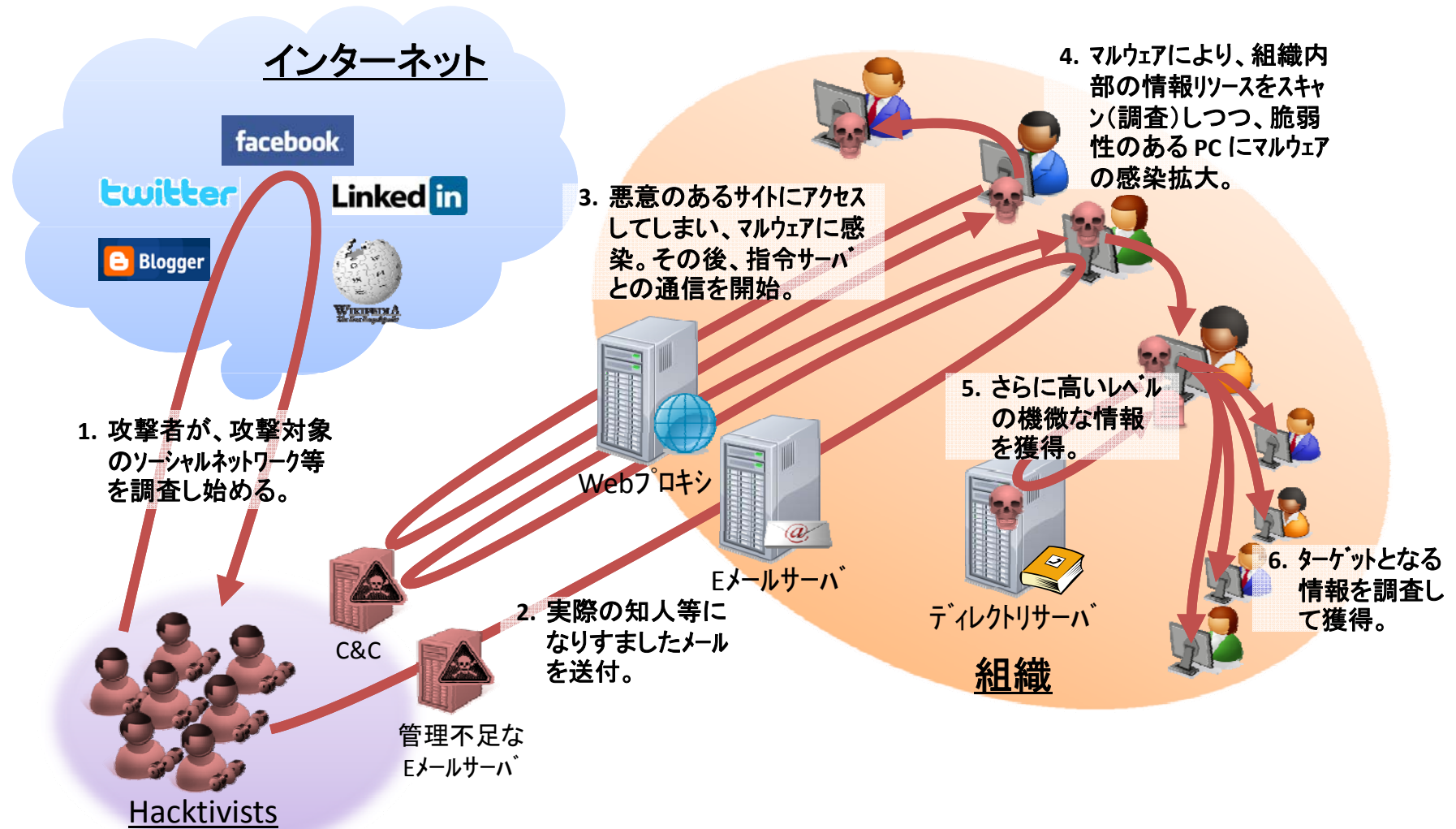
最近のサイバー攻撃のプロセス(5)



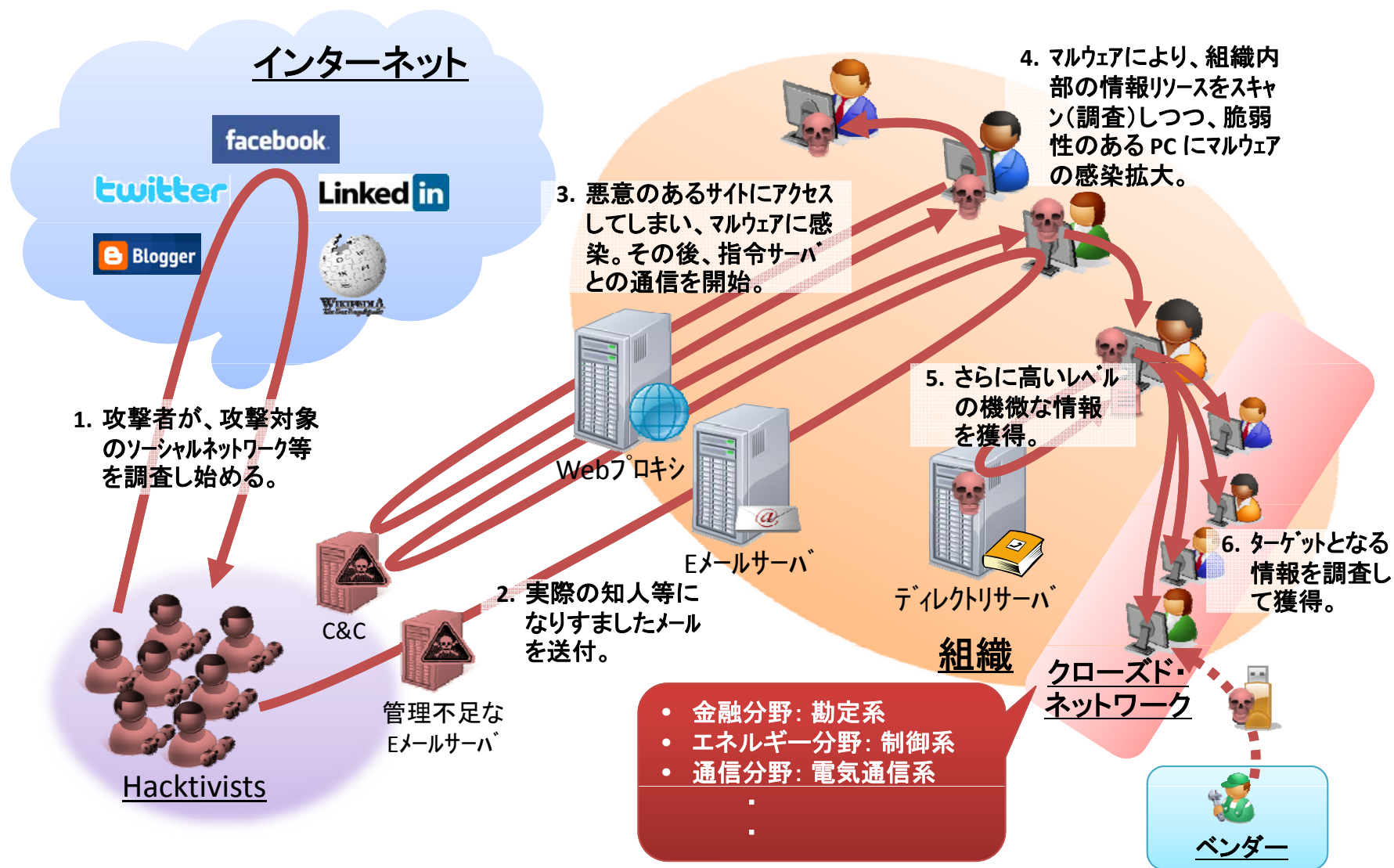
最近のサイバー攻撃のプロセス(6)



最近のサイバー攻撃のプロセス(全体)



今後のサイバー脅威のシナリオ



トピック2

注目すべき事例

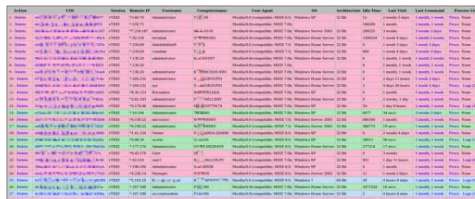
米国におけるPOS端末のマルウェア

【経緯】

- 2012年9月14日、米国書店大手 Barnes & Noble社が、9州63店舗におけるクレジットカード読み取り機 (POS端末) が不正な状態にあることを発見。
- FBIは、Barnes & Noble社に対し、捜査のために顧客への連絡はしないように要請。これを受けて、Barnes & Noble社は、カード発行者のみに伝達し、顧客保護の措置を取る。
- 2012年10月23日、New York Times が報道。
 - Credit Card Data Breach at Barnes & Noble Stores
http://www.nytimes.com/2012/10/24/business/hackers-get-credit-data-at-barnes-noble.html?_r=0
- 2012年10月24日、Barnes & Noble社がプレスリリース。
 - Barnes & Noble Detects Tampering with PIN Pad Devices at Stores
http://www.barnesandnobleinc.com/press_releases/10_23_12_Important_Customer_Notice.html

【手口】

- 未だ発表なし
 - 専門家の間では、内部関係者がPOSにマルウェアを埋め込む、或いは従業員を騙して、マルウェアをダウンロードさせるサイトのアクセスさせる手口ではないかと推測。
 - 2012年12月12日、POSに感染して内部データを外部送信させるマルウェア Dexter の存在が公表され、本件との関連性を確認中。
 - <http://blog.seculert.com/2012/12/dexter-draining-blood-out-of-point-of.html>



IP	MAC	OS	Vendor	Model	Serial	Location	Status
192.168.1.1	08:00:27:00:00:00	Windows	HP	HP-001	123456789	USA	Infected
192.168.1.2	08:00:27:00:00:01	Windows	HP	HP-002	123456790	USA	Infected
192.168.1.3	08:00:27:00:00:02	Windows	HP	HP-003	123456791	USA	Infected
192.168.1.4	08:00:27:00:00:03	Windows	HP	HP-004	123456792	USA	Infected
192.168.1.5	08:00:27:00:00:04	Windows	HP	HP-005	123456793	USA	Infected

Dexter の管理パネル

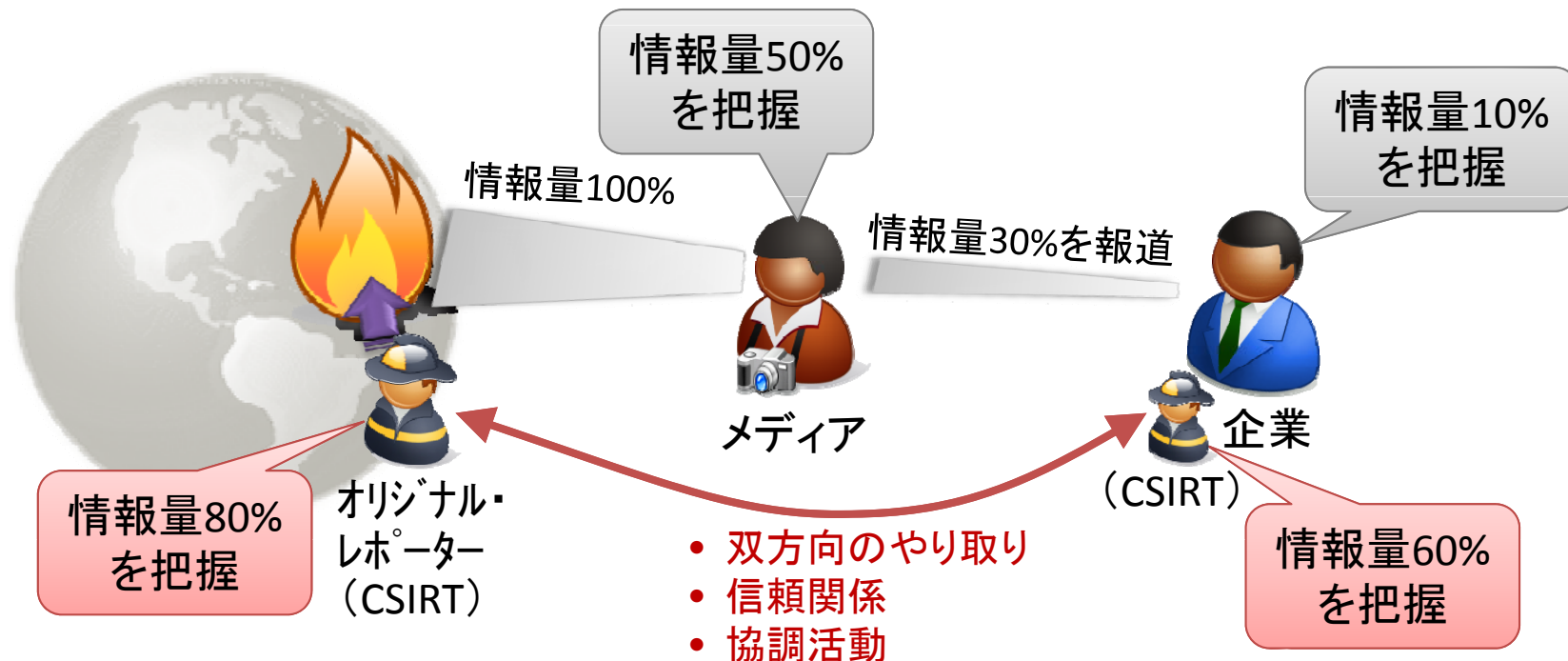
(POSシステムからクレジットカードデータを不正入手したものを一覧表示、現在、世界各国で数百台の被害を確認。)

トピック 3

求められる防衛策のポイント

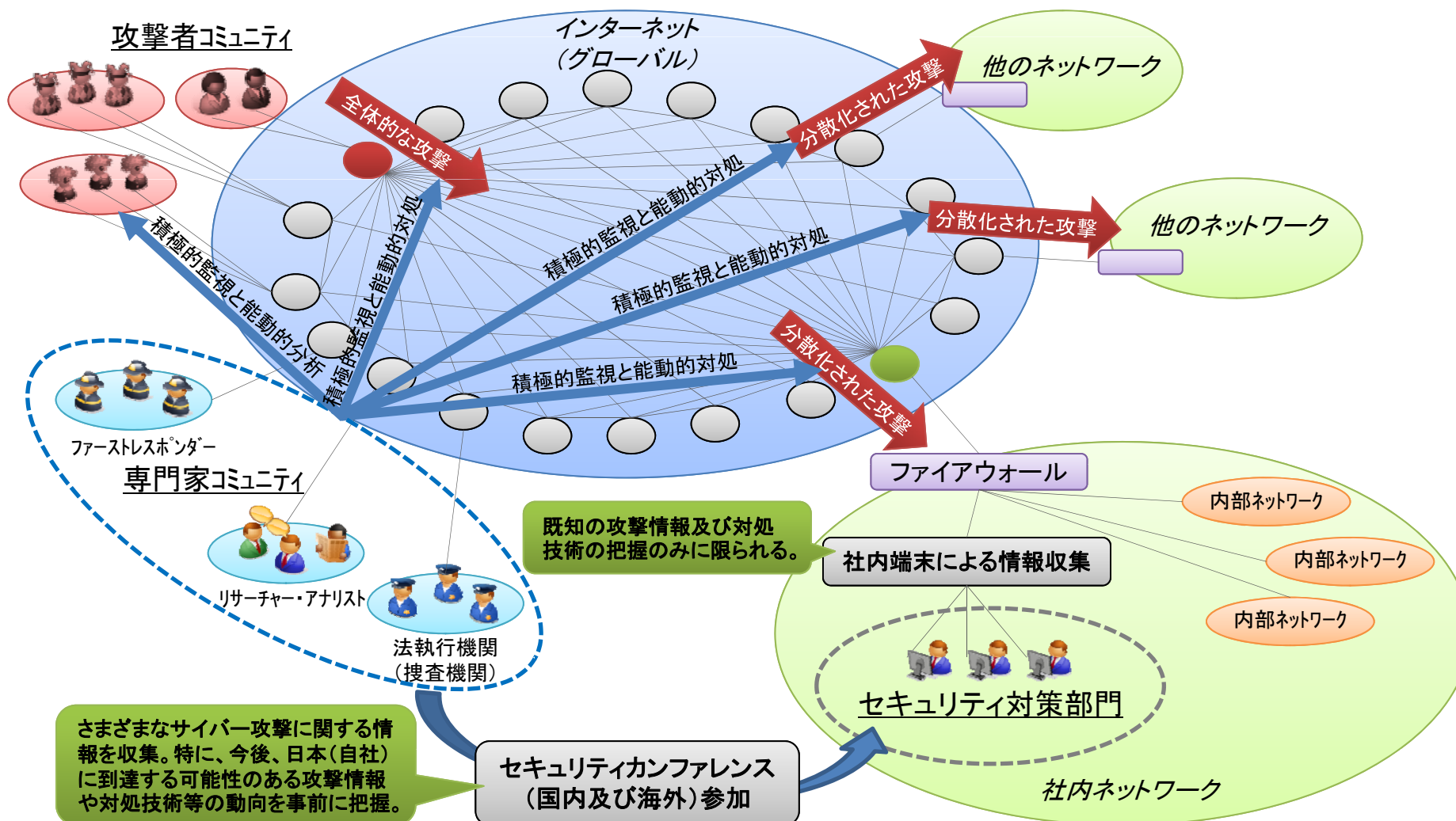
防衛策の「現実的な策定」をするためのポイント(1)

- サイバー空間における脅威を適切に把握すること
 - 一般メディア等が発信する情報を鵜呑みにしない
 - オリジナル・レポーター(Original Reporter)が発信する情報を追求する



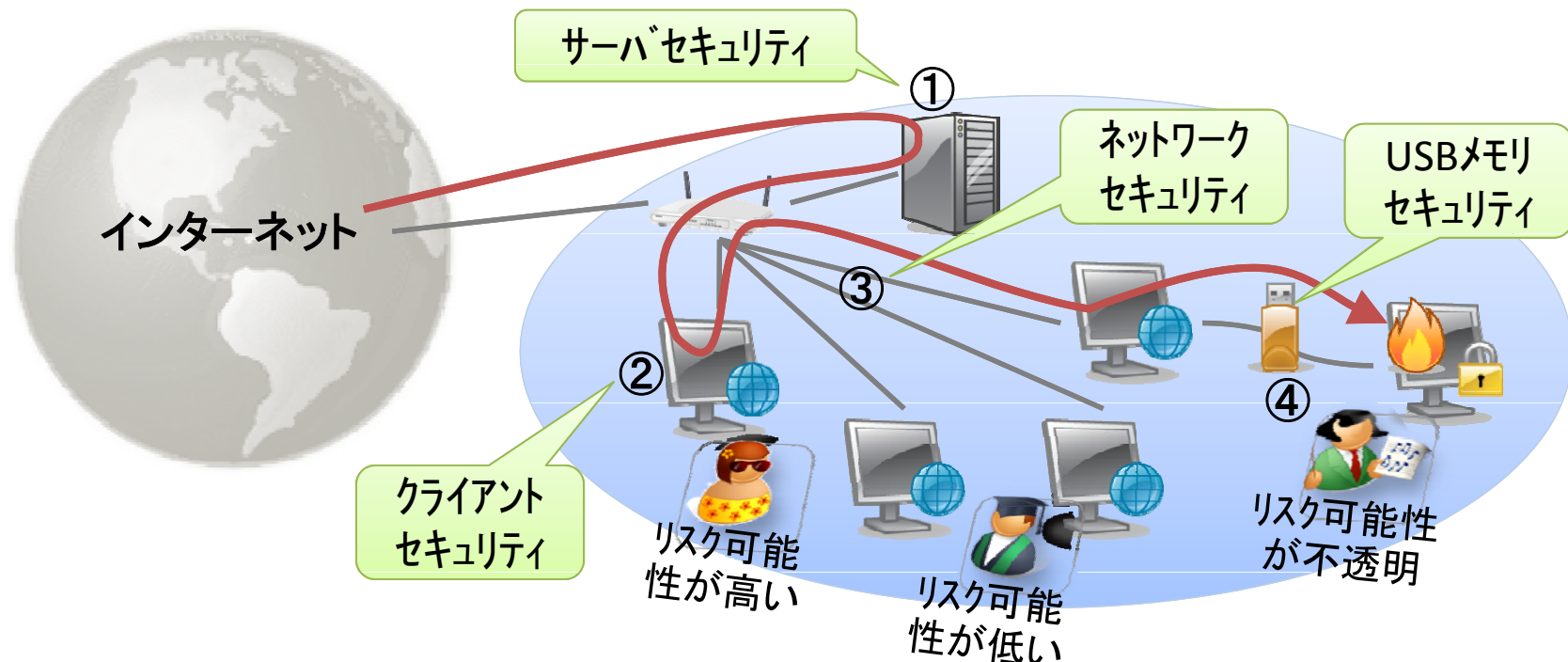
防衛策の「現実的な策定」をするためのポイント(2)

- サイバー空間における動向情報を積極的に収集すること



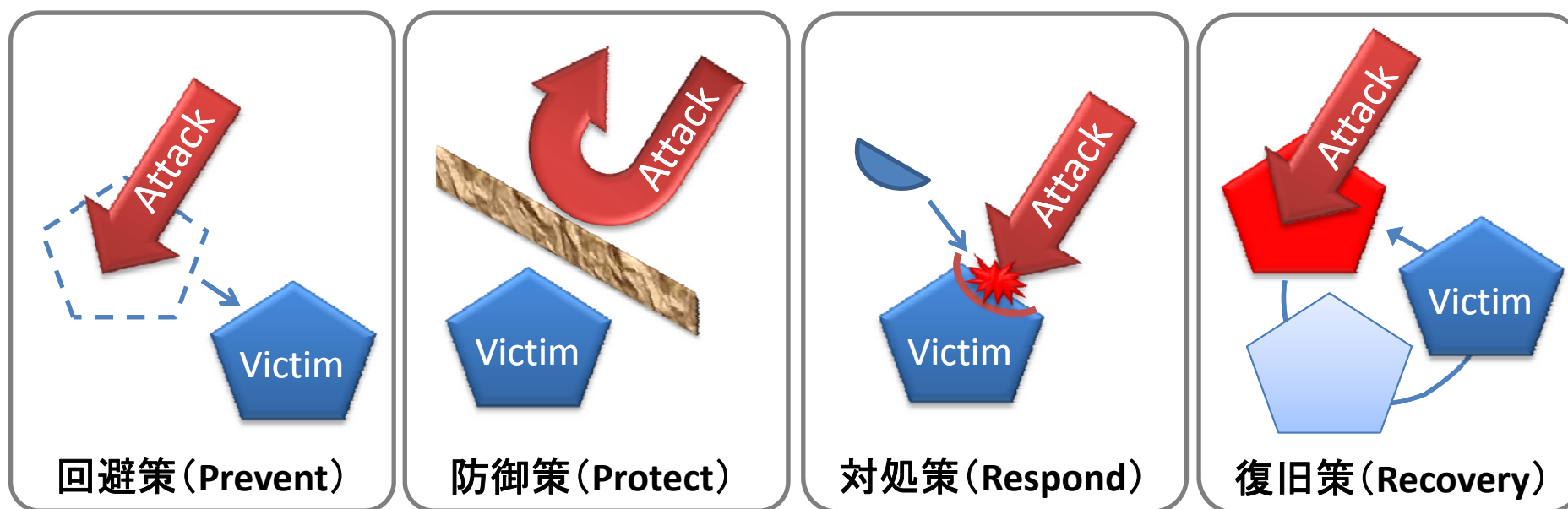
防衛策の「現実的な策定」をするためのポイント(3)

- ある程度の攻撃の仕組みを理解し、その攻撃経路における適切なセキュリティ対策を実装すること
 - サイバー攻撃を「静的な絵」として理解するのではなく、組織全般に渡る&時間の流れのある「動的ストーリー」として理解することが必要
 - 主要な(攻撃)経路ポイントにおけるセキュリティ対策の要否及びレベルの設定には、業務慣習や部署風土も考慮することが必要



防衛策の「現実的な策定」をするためのポイント(4)

- サイバー脅威に対して、メリハリのついた対策を検討し、実装及び確実な運用をすること。
 - 日本国内の対策は、「防御策(Protect)に偏重」しているため、いたずらにコストがかかってしまう状況が見られる。
 - 最近のサイバー防衛策におけるベストプラクティス(最善策)は、対処策(Respond)である。(最低限のリスクを受容し、実質的な被害を発生させないことで、結果的に有効な防衛策となる。)
 - 基本的な対策コンセプトは、次の4つのとおり。



本資料に関する連絡先

名和 利男 (Toshio NAWA)

サイバーディフェンス研究所

情報分析部 / CDI-CIRT

Email: nawa@cyberdefense.jp

SNS: about.me/nawa

Tel: 03-3242-8700

Office: www.cyberdefense.jp

Response Team: www.cirt.jp